連絡報

NO 465

あだち

天理教足立支部 立教 184年 令和3年 2021年11月9日

「支部長室」

元気にしてますか!明るい農村では有りませんが、一人一人の感染対策により感染者数が日増しに減少傾向に進んでいますね。 感染 0 になる日はいつかな。

もう一つは紅葉の便りが北から南下して来ています。行動規制が外れておぢば帰りされた方も多いのではないでしょうか。信じる力と、そこから生まれてくる生きる力、人生は下り坂が最高と、平野正平が、NHKの自転車の旅で言ってますね。…… まるでお道の歩み方を教えてくれている様な気がしませんか?

ところで、貴方の魂は何色になっていますか。赤色ですか、それとも青色ですか、みの形は?、おふでさきに、人生を道に例え、山坂やいばら苦労も崖道もそれを越せば大路や。 又、水に例えては、出花は濁り五目混じりと、心の汚れを現わされています。笑ったり泣いたり傷ついたりしながらの人生。親神様に最後に抱かれる時の魂の色、形を思案して整えさせて頂く歩み方を今一度考えてみませんか。

今年も残り少ない日数となりました。 新年, 一同に会して初例会の開催が出来ます事を楽しみにして居ります。

☺ 支部長 藤波 芳雄 ☼



「本部よりお知らせ」

立教 185年のお節会は中止となりましたので、お知らせします。

尚、元旦祭は行われる予定!

「時報手配りに付いてのお願い」

緊急事態宣言も解除され時報手配りに 付いて活動再開、もしくは暫くの間直送 にするかを検討しなれればなりません。

手配り活動はおぢばの声を各地の信仰 家庭に教友の手でお届けする。おぢばに よって打ち出された、お道にとっては不 可欠な御用です。

しかしながら、手配りひのきしんを直ぐに再開と云う訳には行かないと思います。去る10月9日には足立区内では7人の感染者の方が有りました。以前に比べると感染者数は減少して居りますが、決して感染リスクが無くなった訳では有りません。又、手配りが中止になってからません。又、手配りが中止になってからします。各拠点のひのきしん者の方にも、生活環境の変化等も有ったと思います。更に言えば、心や身体の準備も必要かと思います。

尚、手配り活動開始にあたっては、決してむりをされずに、家族に相談して決めて下さい。 (支部長より)

☆手配り担当 吉田恵八郎・櫻井幸浩

「お知らせ」 社友 櫻井より

足立支部内の本杉安分教会長、坂田鏡介先生が「日々の陽気ぐらし」に掲載されました。道友社は『天理時報』創刊90年を記念し、立教183年4月から7月にかけて「かしもの・かりもの」「ひのきしん」「陽気ぐらし」との題でエッセイを募集。そこで先生は「かしもの・かりもの」の題で投稿されたところ、数多の応募作品の中から、入賞作29編に選ばれました。先生ご自身の体験された身上のお話しです。是非、ご一読下さい。

0

「炊き出しひのきしん 活動報告」 (10月12日・22日)

0

非常事態宣言も解除になり、人流も増え、経済も活気を取り戻し初めた様な、今日です。 が、生活困窮者の方はまだまだ大変なのだなあと思います。

10月も12日と、22日に炊き出し活動を行いました。

0

朝、おつとめ前に大鍋で、お湯を沸かし、50食分のアルファ米の大きな袋の中に熱 湯を入れ、袋の口を締めて、しばらく置いておきます。するとおつとめが終わり、朝食を 済ませると、袋の中で、ふっくらした混ぜど飯が出来上がっています。今月はわかめど飯 でしたが、他にも山菜おこわ、五目御飯、その他に種類はまだ有るようです。

熱々のど飯をバックに詰め、その上に唐揚げか、肉や魚のフライと卵焼き、そして野菜 の炒めた物をトッピングして、蓋を閉め、輪ゴムを掛けて、スプーンを差し込み、出来ト がりです。卵焼きや唐揚げ等はフードバンクから頂くもので、野菜は有る物で賄います。

そして12時前に教会を出発して、12時半より山谷玉姫公園でそのお弁当を配ります 毎月100人以上の人が列を成して待っているのです。

始めた当初は、家族だけで炊き出しを始めたので、不慣れも有り、2時間以上も掛かっ ていたと思います。

最近では何人かの人が手伝って下さるので、上時間程度で200食の弁当が出来上がり ます。近頃は支部長さんの奥さんがよく来てくださいますし、お道の人以外の方もお手伝 いに来てくれる様になってきました。

毎月フードバンクより、食料を供給して頂けるお陰で、また毎月お手伝いに来て下さ る方々のお陰で、今月もつとめさせて頂きました。 有難うございました。

0 川中 鶴巻 房雄





「天理教東京教区婦人会、オンライン 委員部長講習会 開催さる」

去る10月30日(土)午後1時より「オンライン婦人会委員部長講習会が行われました。

テーマは『小さな事から一歩一歩』

講師は松村のぞみ先生(本部婦人・東京分教会長夫人)

足立支部婦人会では、パソコン・スマホ・タブレットの利用が出来ない方に、星藤分教会にお集まり頂き、このオンラインをテレビ画像に映して、ご覧頂きました。

10月30日、東京教区婦人会オンライン委員部長講習会で、講師の松村のぞみ先生は、テーマの「小さな事から一歩一歩」とは自分のテーマでも或る。大きな事は出来ないが精一杯しようと通っている。何処に向かってなのか? 目標を定める。!

教会活動の目標とは? 教典第9章にある。

婦人会の活動の目標は、成人目標「陽気ぐらしの台となりましょう」と掲げている。 台とは、土台。支えを女性がする。人を包み込む。辛抱強さが女性である。

陽気普請の台。しっかりした台に成る為にはどうしたら良いか。

成人目標の「ひながたをたどり…」である。

学ぶとは、平安時代の頃は「学ぶ」=「まねぶ」で、まず真似をすれば良いのだ。**教**祖の 真似を出来る事を実行すれば良いと思った。

若い娘さんを預かった事が有る。昼御飯に起きてくる。何で起きてこないの?とイライラする。教祖だったら、どう声を掛けられるのかしら? 教祖様が月日のやしろと成られる以前の事、ある秋の米の収穫時期に作男を雇った時、大きな丈夫そうな身体なのにひどい怠け者が居ました。なにもしないで動かない男に、みき様は「ご苦労様やなあ」と声を掛け、小屋の屋根に寝ている男に、「おつかれさん、おなかへりましたやろ」「おりて来てお弁当たべなされや」と声をかけられた。その後、申し訳ないと気付いたか、人一倍の働き手と成ったそうです。

教祖様は月日のやしろと成られる前から、人には優しい言葉を掛けておられる。人様に 助かって貰いたいの心一つであった。

表統領のお話に、これからの道の歩みは、おたすけを求める人に向き合うお助け活動。 因縁を持つ人は大勢居られる。

リーフレット配りに加えて、子育て支援事業に参加している。

教会でお子様をお預かりする時は、神様に声を出して「お守り、お連れ通り下さい」とお願いをする。

子供食堂では、お年寄りにも来て下さる。

コロナ禍でも、お弁当を届けるうちにお話をするようになった。

この一歩一歩が20年30年先の教会の力になると良いなと思う。

信頼される人に、信頼される教会になりたい。

先生は、お話の始めに、みちのだい200号11ページ。中山まさ奥様の言葉を引用され、「動かなければ何も動かない。動くから見えて来る喜び、勇みも出てくる」

◎オンラインの講習会でしたが、感ずるままに個条書きにしてみました。星藤分教会会場に7名のご参加を頂きました。有難うございました。久しぶりにお会いして、ねりあいをして元気を頂きました。藤波つるえ